


自己評価表（結果）

学校番号	88	静岡県立浜松工業（  分）	課程	全日制
------	----	--	----	-----

今年度の重点目標（学校経営目標）		評価	成果と課題	次年度の取組
ア	新しいタイプの専門高校の在り方研究	B	新学科の開設に向けて、地域での学科説明会、先進校視察、広報活動、カリキュラムおよび各教科内容等の具体化に取り組んだ	新学科の教育目標達成に向けて、カリキュラムおよび各教科の指導内容、施設設備等の準備と充実を図る。
イ	生き方教育の推進（進路目標の早期決定）	A	外部との情報交換・情報収集を行い、進路希望達成に向けて指導充実を図ることができた。就職希望100%、進学希望98%、インターンシップ参加率は28%を達成した。また、ホームステイ受入、浙江省芸術団の公演など国際理解教育の充実も図ることができた。	今後も地域の産業社会との連携を深め、充実した工業教育を目指す。また、インターンシップや高大連携など外部の事業に積極的に参加させ、進路意識や職業意識の一層の向上を図る。
ウ	生徒の自主的な教育活動への取り組みを推進	A	生徒会を中心に、各行事に対し、生徒自ら主体的に企画立案し、積極的に実行する意識が強くなってきた。WAZA15では5部門で東海大会出場、電気研究部や機械研究部、情報処理部が全国大会で上位入賞を果たし、資格検定などに多くの生徒が参加、挑戦した。	生徒が活動できる場を増やし、広い視点に立って、自主的に行事に取り組む態度を育成する。また、指導方法の工夫、外部講師の積極的活用などにより、さらに多くの生徒の大会、コンテスト、資格取得等への積極的参加を促す。
エ	基本的な生活習慣の育成	B	登校指導を中心に日常的に指導を実施し意識高揚を図った。生徒の意識は高くなったが、数値目標の評価78%の結果ほど積極的な挨拶かは疑問であり課題である。	登校指導を中心に日常の指導を通じて、意識の一層の高揚を図る。さらに、生徒が高い意識で主体的に挨拶ができるよう、各クラスでポスターを作成し掲示する等の指導の工夫を図る。
オ	教科指導力の向上	B	専門、普通教科とも、授業が分かると答える生徒の割合は約70%と高くなった。初任研、10年研等を中心に、教員間の授業見学回数の増加を図ることができた。教育研究セミナーへにも5名が参加し、肯定的な評価を得ることができた。	授業改善に向け、公開授業週間を一層充実させて教科指導力の向上を図る。また資格取得、課題研究等、個に応じた指導を一層充実させる。
カ	広報活動の充実	A	地域への100日以上施設開放や学校案内の内容改訂、新聞による情報提供約70回、HP更新220回、学科説明会7回、出前授業の実施など情報発信を行った。	地域・小中学校への工業高校としての情報発信を継続して行う。教育活動のより速やかな情報発信を図る。

〔共通〕

領域	ねらい	評価項目	項目番号	達成目標	当該重点目標記号	評価	成果と課題	次年度の取組
学校経営	適切な教育目標の設定	生徒・学校・地域社会の実態に即した教育目標を設定する。	1	工業高校としての速やかな情報発信を行い、地域・小中学校・保護者への広報活動の充実を図る。	カ	A	今年度の新聞による情報提供約70回、HP更新220回、学科説明会7回、中学校への出前授業等をとおして、地域・小中学校への工業高校としての情報発信を行うことができた。	地域・小中学校への工業高校としての情報発信を継続して行う。また、HPなどによる教育活動のより速やかな情報発信を図る。
	開かれた学校づくりの推進	教育活動の内容等について保護者や地域等への情報発信に努めるとともに地域の人材活用を図る。	2	本校の教育活動を、印刷物やホームページで迅速かつ正確な情報として発信する。	カ	A	行事案内や連絡事項などを適宜HPに掲載することができた。また、印刷物（初生だより）も例年通りに発刊することができた。	本年度同様に適宜HPを活用する。より学校の様子がわかる「初生だより」を作るために内容の検討。
	事務の適切な執行	表簿等の管理を厳正に行うとともに、事務の効率化、セキュリティの徹底を図る。	3	NESの導入に伴う文書管理方法の変更を視野に入れながら新たなシステム構築を検討する。		B	会議室予約や文書共有、掲示板等を導入して、事務の効率化やNESパソコンの有効活用に取り組んだ。	成績処理システムの導入に伴う文書管理の変更や、NESパソコンの有効活用できる新たなシステム構築を検討する。
	親切・丁寧な対応の徹底	生徒への生活指導を含め、生徒及び来訪者に対して、親切丁寧な対応を行う。	なし	言葉遣いに留意し、相手の側に立った、迅速な対応をするように心掛ける。		A	生徒及び来訪者に対して丁寧な対応、迅速な電話の対応ができた。	来年度も継続する。また、職員室等での会話も含めて言葉遣いには一層の留意をする。
	組織的・機能的な学校運営	各分掌間の連携を図り、教職員の共通理解に基づいた教育活動を行う。	4	分掌内の役割分担を明確にし、組織的に効率的な運営を図る。		B	校内委員会等の改廃に取り組んだ。各分掌とも役割分担は明確になっているが、組織的、効率的な運営に関しては検討の必要がある。	前年度の反省を生かし、組織的・効果的な役割分担等、運営の改善に一層取り組む。
教育課程	生徒の実態等を踏まえた特色ある教育課程の編成・実施	教育目標、重点目標及び生徒の実態等を踏まえた教育課程を編成・実施するとともに、点検・改善に努める。	5	平成24・25年度入学生の実態等の変更に伴う問題点・改善点を点検する。		A	新学習指導要領のに基づき、生徒の実態等と踏まえ教育課程の変更、編成を行った。	生徒の実態を考慮し、特に新学科の教育課程の検討を行う。
		授業時間の確保を考慮した学校行事の計画と実施に努める。	5	学校行事の見直しをして授業時間を確保する。		A	各学年とも計画通りに授業数の確保ができた。	必要な学校行事を盛り込みながら、授業数の確保に努める。
教科	基礎・基本の確実な定着と個性を生かす教育の充実	授業改善の推進を図るとともに、個に応じた指導を行う。	6	授業公開週間を活用して、授業内容の改善を図る。	オ	B	研究授業の回数が増え、授業見学をする教員が多くなった。	研修課と連携し、公開授業を有効に活用する方法を検討する。

科指導	自ら学び、自ら考え、課題解決に主体的に取り組む資質能力の育成	授業形態や教材の工夫・改善を図る。	7	授業をとおして職業観・勤労観の育成を図り、実習をとおして生き方・在り方を学ぶ。	オ	A	各学科において講師を招請し授業を展開することで、技術指導の工夫がなされた。	各教科において実践的な内容に触れる機会を増やし、職業観・勤労観の育成を図る。	
学習の時間	総合的な	自ら学び、自ら考え、課題解決に主体的に取り組む資質・能力の育成	8	横断的・総合的な学習、探究的な学習の充実に留意し、目標を踏まえた学習活動を実施する。					
特別活動	社会性及び自主的、実践的な態度の育成	教育目標を踏まえ、創意工夫を凝らしたホームルーム活動、生徒会活動、学校行事の推進を図る。	9	生徒会を中心に学校行事をとおして企画運営の機会を増やし自主的に行事に取り組む姿勢を身につけさせる。	ウ	A	各行事に対し、生徒自ら主体的に企画、立案し、積極的に実行する意識が強くなった。	さらに、生徒の主体の場を増やし、広い視点に立たせ生徒会、各委員会の活動をもとに学校環境全体に良い雰囲気を広げていく。	
		奉仕活動をとおして地域と連携を図り、地域に感謝する気持ちを養う。	9	校外の美化を意識することにより校内の美化意識の高揚につなげ校外内に落ちているゴミ等が目につかなくなっている	ウ	B	奉仕活動は、1・2年クラス単位で年間計画を立て、計画通りに実施できている。	3学年での実施の年度になるので、各学年と連携をとりながら進めていく。	
部活動	生徒の自主的・自発的な活動による学校生活の充実	指導方法等について工夫・改善を図る。	10	部活動の月間練習計画等の立案に生徒を参加させ、生徒の自主性を育てる。	ウ	B	月ごとの練習計画立案に生徒が参加し、企画運営能力や主体性が身につけてきた。	一部の部活で練習計画との差異が見受けられた。時間の使い方、計画の意義を深く考えるよう指導する。	
		部活動と学習の両立を図る。	10	機会あるごとに、集会や部活動、生徒個々に声をかけ高次元の精神の育成をし文武両道の精神をもたせる。	イ	B	生徒は、文武両道の精神を理解し、両立を目指し時間を有意義に計画をし実行している。しかし、一部の生徒に、部活動が主となって勉学に支障をきたしている場面があった。	学生として勉学の本分をおさえ、本質を見失うことがないように集会や個々などに様々な機会を通じて、意識の喚起と高揚を図る。	
生徒指導	基本的生活習慣の確立	欠席・遅刻等の減少を図るなど基本的生活習慣の確立に努める。	11	登校指導等で意識向上を図り、一人一人にきめ細かい声かけ指導を行う。	エ	A	早朝の登校生活指導に高い意識をもつようになり、全体的にも改善された。しかし、一部の生徒については家庭環境上情報交換が必要である。	ゆとりをもった登校が、安全生活の基本であり高い意識を持たせる。家庭事情を持つ一部の生徒への具体的な対応策を検討し、連携を密にする。	
		コミュニケーション能力の育成を図る。	なし	集会等各場面で声をかけ生徒一人一人に協調性を持たせ、人間性豊かな教養を身につけさせる。	エ	B	朝礼や集会等で意識を高めた。また、必要に応じて、個人の理解、多集団への理解を培うよう積極的に各種行事や社会貢献等の参加を促した。	場面場面で生徒一人一人に、いろいろな場面で積極的に参加させ他を理解しつつ自分の意見を筋道を立てて説明できるよう粘り強く指導する。	
	モラルの育成	マナーや社会的規範意識の育成を図る。	12	登校指導や日常的に礼儀正しく挨拶のできる習慣づけを行う。数値目標評価80%以上	エ	B	登校指導を中心に日常的に指導を行実施し意識高揚を図った。生徒の意識は高くなったが、数値目標の結果ほど積極的な挨拶かは疑問であり課題である。	学校全体に意識が浸透してきている。さらに、生徒が高い意識で主体的に積極的に挨拶ができるよう確立させる。	
	安全教育の充実	生徒の防犯意識及び安全対応能力の向上を図る。	13	学校安全計画の交通講話、街頭指導、自転車点検等を実施して、生徒の意識の向上を図る。数値目標、自転車事故20件未満	エ	B	学校安全計画書の作成、集会での喚起、自転車点検年3回、交通講話1回、交通安全週間及び毎月0の日に街頭指導を実施した。しかし、現在事故18件あり徹底指導する。	新年度に向け学校安全計画書の確認を徹底すると共に、生徒一人一人、そして全体の雰囲気にも注意し各学年、関係課との連携を密にし粘り強く積極的な安全指導を行う。	
進路指導	望ましい勤労観・職業観の育成	就業に関わる体験的活動や計画的・体系的なキャリア教育を推進する。	14	生徒企業研究やインターンシップ実施の支援をする。		B	インターンシップの参加率が昨年度より12%増の28%だった。2年次において科ごとに工場見学を計画し実施した。	インターンシップ、2年寺工場見学、卒業生による講話などキャリア教育に繋がる行事の実施と支援をする。	
		主体的に進路を選択し、自己実現を図ることができる能力の育成	15	より良い進路選択を目指して、進路課、学年と協議しながら、LHRの活用、企業訪問、進学指導を実践していく。	イ	A	学年と連携しながら進路指導を進めることができた。生徒が希望した企業訪問を、ほぼ実施できた。	担任・学年と連携しながら事前の進路指導を行う。就職指導ではわかりやすい企業情報の提供に努める。	
保健指導	心身の健康の保持・増進	心身の健康の保持・増進のため、病気予防、朝食摂取や薬物乱用の防止等の取組を推進する。	16	各検診後の治療の勧告と追跡調査。3年生のはしか予防接種実施率100%目標。		B	はしか予防接種率が95%であった。内科的保健室利用者は大幅減であったが、外科的な利用者は微減であった。薬学・思春期講座はアゲートの内容から啓発に役立っていた。	生徒の健康意識の向上。実習、体育、部活時における怪我の予防に努める。校内内の清掃のさらなる徹底。	
活用指導	図書館	読書指導の推進	朝読書等、読書指導の充実を図る。	17	LHRや読書週間の有効な活用を図る。		B	中学校での朝読書に慣れている生徒にとって各学期1回の読書週間は物足りないようである	読書週間のあり方（時期・期間・実施方法）を再検討する。
		図書館活用の促進	図書館を活用した学習活動の充実を図る。	18	利用者数の増加を図る。		B	昨年度とほぼ同数の利用数だった。	購入図書選定の方法を再検討する。
		図書委員会の充実	図書委員会の充実を図る。	18	主体的に活動する委員会を目指す。		B	2年生の委員たちが特に頑張った。	今年度以上に図書選定に図書委員を関わらせる。
		文化講座の充実	演劇教室の充実を図る。	なし	感想文作成により、事後の心に残る活動にする。		B	生徒の満足度が高かった。交通マナーも昨年度よりは良くなった。	保護者に対して、このような情操教育を行っていることが伝わるようにする。
		視聴覚設備の管理・運用	視聴覚教室等、施設設備の管理・運用を考え、利便性を図る。	なし	苦情がない状況を維持する。		B	機器のトラブルに対して適切に対応ができた。	トラブルの発生を防ぐ方策を検討する。
教職員向上の資	教職員の資質能力の向上	校外研修への参加及び校内研修の充実を推進する。	19	校内研修会を開催しその成果を以後の教育活動に反映させる。	オ	B	情報研修では端末の活用方法が広がり、特別支援教育研修では生徒への理解が進んだ。体育科では安全な授業展開についての意識が高まった。	情報端末の活用方法を習得する。情報管理意識の高める。工業科目での授業改善研修を実施する。	

教育相談	相談体制の充実	校外内における相談体制を整備する。	20	昼休みと放課後に担当者が相談室に常駐する。3分間カウンセリングの継続実施する。SCや関係者との連携を密にし支援体制を確立する。	工	A	担当者が相談室に常駐する体制はできている。3分間カウンセリングは早期の生徒理解のために必要である。SCからの専門的立場からの助言は生徒理解や支援に役立った。	相談室の利用しやすい環境作りをする。3分間カウンセリングの継続。SCの継続。
	生徒理解の推進	情報収集を行い、早めの対応を図る。	20	多方面から情報を収集し、個に即した早めの対応に努める。		B	職員間の情報の共有に努めた。SCの活用により生徒理解の体制をつくった。調査の結果が生徒理解に役立った。	調査の継続。SCの継続。職員間の情報の共有に努め、個に即した支援をすすめる。
福利厚生	教職員の健康の保持・増進	教職員の心身の健康の保持・増進を支援する。	21	健康講座等を活用して職員の親睦と健康の増進を図る。		A	運動トレーナーによる「貯筋体操」タオルを使いストレッチ(体ほぐし、血液やリンパの流れをよくする)を実施した。	職員の希望する内容の講座を企画して、参加を呼びかける。
危機管理	危機管理に関する校内体制の整備	学校や地域の状況を踏まえた学校独自の危機管理マニュアルに基づく実践的な訓練により学校の危機対応能力の向上を図る。	22	常に防災マニュアルや緊急連絡網の点検を行い、緊急時の対応が適切にできるようにする。地域防災訓練への参加率50%以上を目指す。		A	今年度、土木科を中心に岩手県陸前高田市へ災害支援ボランティアに参加し、報告会を実施した。震災の恐ろしさと復興への助け合いの大切さを感じることができた。	地域と連携した校内防災組織の再編成を行う。
事務部運営	教育活動の支援	教務部との連携を図り、教育活動を支援する。	23	各分掌・教科との連絡調整を密にして、意思疎通を図り効率的な事業執行に努める。		A	情報伝達の手続きや省資源などの効率化を目指し、NES/パソコンの有効利用を検討した。	NESの掲示板や共有文書など機能の積極的な利用を図り効率化を目指す。
	親切・丁寧な対応の徹底	生徒及び来訪者等に対して親切・丁寧な対応を行う。	24	迅速な対応を心がけ、窓口・電話対応での苦情ゼロを維持する。		A	会合や打合せのための来訪予定や校内行事・職員の動静など接遇のために必要な情報の共有化に努め、迅速かつ丁寧な対応を心掛けた。	窓口・電話対応での苦情ゼロを継続する。
	学校事務の効率化	常に創意・工夫した事務改善を図る。	25	事務の質の低下を防ぎつつ、さらに効率化を目指す。		A	限られた人的資源の有効活用を図り、一層の効率化のため、分担業務を見直し、事務職員の分掌を再配置した。	NESの掲示板や共有文書などの機能の積極的な利用を図り更なる効率化を目指す。
	学校経営予算に基づく予算の編成及び執行	当該年度の重点的取組を推進するための予算編成を行うとともに、計画的に予算を執行する。	26	執行留保など予算の縮減や、漏水等による予算への影響を最小限に留め、柔軟に執行する。		A	経営予算における、大きな執行留保や年度末における解除、また年度中途の突発案件等にも柔軟に対応することができた。	県税収入の伸びが期待できない中で、今後の執行留保をも視野に入れた予算計画の立案が必要である。
	教育環境の整備	施設・設備の整備充実を図る。	27	校舎内外の点検により、前向きで効果的な補修を実施するとともに、補強工事に係る連絡調整を行い、円滑な事業執行を確保する。		B	補修予算の大幅な削減の中で、生徒職員の安全確保を優先しつつ、整備に努めた。	耐震補強工事の完了に伴い、これから先の学校独自の整備計画を検討する。

〔学科〕

領域	ねらい	評価項目	項目番号	達成目標	当該重点目標記号	評価	成果と課題	次年度の取組
工業科	技能、技術教育の充実	ものづくり教育を強化するとともに、数学及び英語の実力養成を図る。	33	WAZAフェスタものづくりコンテストにおいて上位入賞を目指す。作品コンテスト等で全国上位を目指す。実用英語技能検定と実用数学技能検定の受験を勧奨し実力を養成する。	ア	B	WAZAフェスタでは溶接・電気工部門で1位、化学分析・測量・メカトロニクス部門で2位を獲得し、東海大会への出場を果たした。デザイン科では「ふじのくにユニバーサルデザイン大賞」受賞、生徒研究発表会では教育長賞を受賞し大きな成果が得られた。また、生徒研究発表会では教育長賞を受賞した。エコランカーは電気部門で1,2,3位と8年連続優勝。スパコン全国大会で4位入賞、パソコン甲子園全国大会本選に2チーム参加し第7位・第8位の成績をおさめた。さらに、情報オリンピック本選にも出場した。	今年度の結果を反省・検証し、継続的な指導を行い技術力の向上を図る。前年度の実績を踏まえ、より上位を目指し東海・全国大会への出場を果たす。英語検定・数学検定への受験を呼びかけ合格者の増加を図る。
			34	インターンシップや高大連携事業に積極的に参加させ、進路意識や職業意識を高める。各種資格や検定試験の合格率を各科目で昨年年度以上にアップさせるとともに、より高度なレベルの資格試験への受験を促し、多くの生徒を合格させる。	イ	A	各科目で高度な資格に合格し、その他の資格についても多くの生徒が合格した。インターンシップには2年生88名、高大連携事業にも多くの生徒が参加した。また、各科目で企業見学を行い、進路・職業意識を高めることができた。	今後も様々な事業を実施し、積極的に参加させることで早い時期から進路意識や職業意識の高揚を図る。各種資格・検定試験については指導方法の工夫と外部講師の積極的な活用を行い、合格率向上と、よりレベルの高い資格取得を目指す。
			35	企業研究事業や高大連携事業に積極的に参加し情報交換を行う。多様な人材を活用し技術や能力を高め、地域に期待される人材を育成する。	イ	A	企業研究・企業訪問・高大連携事業・大学出張授業・外部講師招請等とあわせて、積極的に外部との情報交換・情報収集を行い、専門的な知識を高めることができた。	今後も様々な事業に積極的に参加することを奨励すると共に、より充実した情報収集、技術習得ができるよう地域の産業社会や大学との連携を深め、充実した工業教育を目指す。

			35	知的財産の重要性をより多くの生徒に理解させる。	ア	A	全学科において、計画通りに知財教育が実施できたことで、あまり馴染みのない知的財産が身近なものであることが理解できた。	さらに発展させた知的財産教育を全学科で行い、1年～3年へと継続的な学習の計画。
		新しいタイプの専門高校の在り方について研究する。	35	新しい学科の設置に向け、カリキュラム及び各教科内容の具体化を図る。	ア	B	新学科設置が決定し、カリキュラム・指導方針等を協議したが、作業全体的に遅れていた。	新学科として、スムーズにスタートできるような体制作りを図る。

〔教育課題〕

領域	ねらい	評価項目	項目番号	達成目標	当該重点目標記号	評価	成果と課題	次年度の取組
情報教育	情報化に対応できる能力の育成	情報活用能力の育成を図る。	53	各種アプリケーションソフトの活用やネットワーク構築の技術を高めるなど情報リテラシーを向上させる。		A	情報技術基礎や課題研究・実習を通して、アプリケーションソフトの活用能力を高める取り組みや情報リテラシーの向上を図った。	課題研究・実習等とおして、実践的な情報リテラシーが高められるよう今後も積極的に取り組む。
		情報モラルの育成を図る。	54	LHRや集会等で情報モラルについての指導をし、情報技術基礎の授業で深める。		B	学年集会等でもモラルの指導を実施し、さらに情報技術基礎の授業を通して、モラルや知的財産権の指導を深め定着した。	情報技術基礎等の授業を通して指導し、さらに学年と連携すると共に1学年の早い段階での指導と生徒への啓発活動の充実をさらに図る。
国際理解教育	異文化理解の推進とコミュニケーション能力の育成	多様な文化、歴史等を学習する機会を充実を図る。	55	浙江省民族芸術団の公演を通して中国の伝統文化を理解する。	イ	A	中国浙江省民族芸術団の高度な演奏、舞踊を見ることで得、異文化を間近で実感することができた。生徒の中国への興味を喚起できた。	再び他国の芸術団などが来日し、静岡を訪問するときには、浜工で公演してもらい、生徒に異文化体験をさせる。
		国際交流体験の機会を充実するとともに語学教育の充実を図る。	56	台湾姉妹校への派遣（10名以上）及びALITを活用した語学講座への参加（20名以上）		A	台湾で、姉妹校の生徒と交流し、ホームステイすることで、異文化を体験することができた。言語の大切さ、人と人の心を伝える貴重さを感じることができた。	来年度は訪台湾、来日ともに予定されていないが、密に連絡を取り、今後の予定をたてる。これまでの活動を広げ、周知に務める。
人権教育	確かな人権感覚の育成	教科・特別活動等において、計画的に人権教育を推進する。	57	人権意識啓発の資料を紹介し、LHRや授業での活用を促す。		B	自己については高い人権意識を持っているが、周囲の者に対して意識が薄い。	教育公務員としての自覚のもとに、HR経営や授業等を通して意識の高揚を図る。
環境教育	自然を大切にすな心など実践的な態度の育成	体験的な活動を通した環境教育を推進する。	58	整備、安全委員の活用による生徒同士による環境意識の啓発。年1回以上の教室のワックスがけの実施。		B	教室のワックス掛けは目標達成、教室以外のワックス掛けが徹底出来なかった。ゴミの分別意識をさらに徹底したい。整備委員の活動は予定通りできた。節電ステッカーを作成節電に務めた。	教室以外のワックス掛けを喚起する。ゴミの出る量を減らす。節電意識をさらに呼びかける。
福祉教育	他人を思いやる心など豊かな人間性の育成	高齢者や障害のある人などへの理解を深める体験活動を推進する。	59	幼稚園における保育体験実習に1年生全員が参加し、その80%以上がこの実習を好意的に捉え、子育ての意義や命の大切さを再認識する。		A	大多数の生徒が積極的に実習に取り組み、園児との触れ合いを通して命の大切さや子育ての意義を学び、優しい気持ちを持つことができた。また、実習計画や事前打合せを生徒中心にさせることで自主的な活動につながった。	実施時期や活動内容を検討し、より有意義な実習になるよう計画する。
防災教育	防災意識及び防災対応能力の育成	大規模地震等に対する防災能力の向上を図るため、実践的な防災訓練を実施する。	60	災害時の生徒の帰宅経路を保護者と相談の上作図させ、対応をシミュレーションさせる。		A	災害時における消火訓練、降下袋による訓練を12月に実施した。また、年間を通して訓練での参加に前向きな姿勢が見られた。	今年度実施した内容以外に、応急処置の訓練等も取り入れた内容を計画する。
		高校生が地域防災の担い手としての役割を果たせるよう、地域と連携しながら防災体制の充実を図る。	61	地域防災の重要性についての講演を実施し、地域防災訓練への参加率50%以上を目指す。		B	3月の震災から防災意識が強くなった。昨年度に比べ、参加率が向上した。	高校生がかかわった災害の実例を紹介し、自分の住んでいる地域に目を向けさせる。
情報管理	校内LANサーバを安全稼働させるための運用体制を確立する。	各種管理、設定作業等のマニュアルを整備する。	なし	Wikiの更新と管理運用業務のマニュアル化を継続していく。通常のファイルで管理されている情報のWikiへの移行と記入項目の整理・階層化を進める。		B	Wikiの更新は行われているが、NESや設備更新への対応に追われ、項目の整理や階層化にまでは手が回らなかった。また、設備が大幅に更新されたため、それに合わせた内容の更新が必要。	これまで通りWikiの更新と管理運用業務のマニュアル化を継続していく。また、通常のファイルで管理されている情報のWikiへの移行と記入項目の整理・階層化を進め、併せて設備更新に伴う内容の改訂を行う。
		校内LANサービスの利活用を図る。	なし	Notesの活用研究を進める。既存LAN上のメールを教育総合ネットワークからも利用できるようにする。		A	NESやインターネットから校内LANメールを利用できる浜工Webメールを構築した。今後、NESメールを転送する方法など紹介する必要がある。	校内で使用している外字のNES外字へ移行。Notesの活用研究。NESから校内LANの資源をさらに利用しやすくする。
	校内LANサービスの提供と運用を図る。	なし	校内LAN利用の手引きの内容を、教育総合ネットワークに対応したものにしていく。		A	NESから、各種校内LANの機能を利用する方法を掲載した。今後、NES外字への対応方法を記載する必要がある。	外字の取り扱い方法や浜工Webメールの活用など、校内LAN利用の手引きの内容をさらに充実させていく。	
	メール配信、Web、バックアップの安定運用を図る。	なし	新規バックアップ装置の運用体制の確立とWebコンテンツの自動バックアップを図る。		B	自動バックアップが確実に実行され、半年程度前までのファイルが復元できる。i-node枯渇問題と外部公開サーバの自動バックアップが課題。	i-node枯渇問題の解決と外部公開サーバの自動バックアップを図る。	
教職員への情報研修の機会を設ける。	新任教職員への研修を行う。	教育総合ネットワークから校内LANを利用するために必要な内容を追加する。	19			A	年度当初に必要な事項は目標通り実施できた。しかし、依然として実施時間の制約の問題はある。	次年度も同様に実施する。また、実施時間の制約はあるが、NESからの校内LANを利用する方法についてもう少し充実させたい。
		教職員への情報活動の研修を行う。	19	Notes活用研究の結果を踏まえ、研修課と協力しながら実施可能なものから順次校内研修にのせる。		B	特に積極的な研修は実施しなかったが、研修課と今後必要な情報研修の内容を検討し、いくつかの案を作成した。	NESから校内の資源を利用するためのノウハウ等を紹介する研修を実施したい。